



ロビンソン・パトリック
Patrick Robison
2008年8月から国際交流員として、
浦添市役所国際交流課に配属される。
米国アイダホ出身。
文・英訳：ロビンソン・パトリック

チバリョーパト!

レベティコ

私にとってある地域を訪ねる際に必ず体験したいのは、当地の民謡音楽を聴くことです。国際的なジャンルであるロックやポップスも聴きますが、やはり地方の雰囲気や伝わる民謡に魅了されます。沖縄に興味を持った理由の一つです。独特な音楽文化に恵まれているペルーやブルガリアといった国の民謡に耳を傾けるのが楽しくてたまりません。

2007年に父と一緒にギリシアへ行きました。そこで初めて「レベティコ」という音楽を生演奏で聴きました。レベティコとは、ブルーズに近いジャンルで、希土戦争(1919-1922年)後にトルコからの難民によって広まった音楽です。トルコからの移動はとても苦しい経験で、多くの難民は貧乏に陥ったそうですが、そのためレベティコの歌は深い悲しみを表すものが多いです。

小アジアの旋法とヨーロッパの音楽構造を結びつけるのがレベティコの特徴であり、美しく印象的な音楽であると思います。聴く時はとても中東っぽくて、同時にヨーロッパの民謡を感じさせるものがあるので不思議です。最初の頃のレベティコは、ギリシアの下層社会の世界を語っていました。最近の歌詞はといえば兆発的なものが多いのですが、甘いラブソングも多数あります。

レベティコは沖縄の民謡と同じような場所で演奏されます。民謡居酒屋、道端や海岸、ホームパーティー等。リード楽器は「ブズーキ」という弦楽器でマンドリンによく似ています。ブズーキの達人はヴァン・ヘイレンや津軽三味線を連想させ、激しい勢いで弾きます。

レベティコのアルバムはおそらく日本で珍しいものかもしれませんが、もし興味がありましたらインターネットで聴くことができます。私と同じように、歌詞はほとんど分からないとしても、根底にある感情はしっかりと通じるはずです。

Rebetiko

For me one of the most interesting aspects of visiting a place is searching out its folk music. While I enjoy listening to international genres like rock and pop, I am more attracted to music which is tied to a region or a local way of life. This is one of the reasons I was drawn to Okinawa, and it brings me great pleasure to listen to the unique sounds of traditional folk from countries like Peru or Bulgaria.

I had the chance to visit Greece in 2007 with my father, where I heard live rebetiko for the first time. Rebetiko is a kind of blues which became influential thanks to a group of refugees who were relocated to Greece from settlements in Turkey after the Greco-Turkish War of 1919-22. Relocation from Turkey was a very difficult process which left many of the refugees in abject poverty; as a result the music they created is marked by much sadness and suffering.

Rebetiko is a beautiful and haunting music because it combines the modes typically used in Asia Minor with European musical forms, creating an ambience which is not quite European but not quite Middle Eastern despite being reminiscent of both. The lyrics of traditional Rebetiko songs can be quite provocative and speak primarily of life in the less advantaged neighborhoods of large Greek cities, though there are some sweet, sweet love songs as well.

Rebetiko is played in Greece in much the same way folk is played on Okinawa - in pubs and bars, on the street, and in people's homes. The lead instrument is called a bouzouki, a lute which is similar to a mandolin. The best bouzouki players rip at a speed which brings to mind Eddie Van Halen or Tsugaru shamisen.

Rebetiko recordings may be somewhat difficult to find in Japan, but if you're interested you can probably access sound files on the Internet. Even if, like me, you are unable to understand most of the lyrics, I think the underlying sentiment will come through loud and clear.

浦添市移民史便り

第7回

～南米移民デカセギ予備調査と資料収集報告～

今年度も引き続き浦添市移民史だよりを掲載します。今回は、平成21年2月22日から3月1日の間に実施した南米からの移民デカセギ(DEKASEGI)の予備調査について報告します。

今回の予備調査の目的は、先のブラジル・アルゼンチン海外移民調査で浮かび上がった南米移民デカセギの現状を把握することにあります。

調査は、岐阜県大垣市・愛知県豊橋市・静岡県浜松市・群馬県太田市・大泉町・神奈川県横浜市鶴見区の五県六区市町で実施しました。

問い合わせ 浦添市立図書館沖縄学研究室 ☎876-4946

各自治体の取組状況

住宅を失い、帰国や他の都市へ職を求め、移動を余儀なくされています。

大垣市には、約4千5百人のブラジル人が在住し、総人口の約4.4%を占めています。大垣市では、急激なブラジル人の出現で、言語や生活習慣、文化の違いなど、市民に戸惑いが見られたことから、国際交流協会とタイアップして「ポルトガル語講座」や「日本語教室」を開講するなど積極的な対応してきました。

豊橋市には、約1万2千人のブラジル人が在住し、総人口の5.0%を占めています。豊橋市でもブラジル人の急増による市民の戸惑いは大きく、ポルトガル語による広報誌を発行し、「こみの出し方」や年金・医療費・就学援助など市民生活に関する記事を掲載し、それに対応していました。

浜松市には、現在約2万人のブラジル人が在住し、総人口の4.0%を占めています。市内にはブラジル人向けのスーパーやレストランが数多く存在します。その中でも一世移民の店長、県出身の安次嶺さんが経営するスーパーを訪ねました。店内には、ブラジ



ル料理や生活用品が数多く並べられ、ブラジル人の買物客が見られます。この不況の影響は深刻で、お店を利用するブラジル人客が激減しているようです。

太田市には、現在約4千人のブラジル人が在住し、総人口の4.0%を占めています。太田市でも急増するブラジル人に対してポルトガル語による広報誌を発行し、情報を提供していました。

大泉町には、現在約5千

沖縄県人会とデカセギ移民との関わり

横浜市鶴見区では、早くから県出身者が配管工の下請仕事を同じく県出身者のブラジル一世移民を雇用していました。その後、二世や三世を雇うようになったことからブラジル人が急増しました。そのため、鶴見区では、派遣労働者の派遣切りの話はあまり聞かないと言います。

なぜデカセギが急増したのか

南米移民デカセギが急増した背景には、「1980年代から始まったブラジルのハイパーインフレにより、多くの一世移民が日本各地の事業所で働くようになったこと」「1980年代後半から製造業を中心に単純労働者不足の問題が深刻化し、近隣アジア諸国から不法労働者が急増したこと」「こうした不法労働者の排除を目的に、平成2年に「入管法」が改正され、南

米の日系二世や三世、その家族の就労が合法化され、活動制限のない在留資格が与えられたこと」などが挙げられます。

ブラジルからは30万人以上ともいわれ、これまで日本からブラジルへ渡った移民の25万人を超える勢いで来日しています。今では結婚し、子供を儲け、住宅を構え、日本に定住する方も多数出てきました。

しかし、昨年9月以降の世界的不況のなかで彼らの多くは派遣切れで解雇され、職や

存在します。その中でも一世移民の店長、県出身の安次嶺さんが経営するスーパーを訪ねました。店内には、ブラジ

ボランティアサークル総会を開催

浦添市移民出稼ぎ移住ボランティアサークル(代表仲間孝蔵)の総会が3月24日、図書館2階視聴覚室で開催されました。



平成20年度の活動報告では「移民出稼ぎ移住関連新聞記事調査(全22回)」や県公文書館の視察研修の様子が報告されました。役員改選後、平成21年度のサークル活動として、独自の学習会と移民関係新聞記事調査の継続、編集委員会と協働の市内調査、活動日の変更(第2・4水曜日の午後7時～9時)などを確認しました。

ボランティアサークル会員募集中!

※詳細は沖縄学研究室まで

ギャラリーてだこ

Gallery Tedako

作品募集
(テーマは自由です)はがきで送ってください!
切りは毎月12日迄
〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶1-1-1
浦添市役所国際交流課
☎876-1234 (内線2613・2614)